

地域の活性化とたま駅長

—和歌山電鐵貴志駅へのフィールドワークを通して—

松浪 由佳、田辺 祥子、荻 彩音、東 悦子

調査報告

地域の活性化とたま駅長

—和歌山電鐵貴志駅へのフィールドワークを通して—

Revitalization of a Local Community through the Animal Stationmaster, “Tama” : Analysis of the Fieldwork at Kishi Station on the Kishigawa Line in Wakayama Prefecture

松浪 由佳¹、田辺 祥子¹、荻 彩音¹、東 悦子²

Yuka Matsunami, Shoko Tanabe, Ayane Ogi, Etsuko Higashi

1 和歌山大学観光学部生、2 和歌山大学観光学部

キーワード：地域の活性化、動物駅長、観光モデルルート

Key Words : Revitalization of local communities, Animal Stationmaster “Tama”, Sightseeing model plan

Abstract :

This paper reports on the significance of “Tama”, a calico cat adopted as the stationmaster of Kishi Station and three uniquely designed trains on the Kishigawa Line in Wakayama Prefecture. It considers the role of such an iconic character in revitalizing local communities (eg Tama) and proposes some model plans with the strategic aim of attracting more visitors to the area.

1. はじめに

和歌山電鐵貴志駅は、猫の「たま駅長」効果などにより集客数が増加し、廃線の危機にあった貴志川線は赤字路線から大幅に業績を伸ばした。2008年度にナイトの称号「和歌山県勲功爵」を贈られた「たま」は、貴志駅のスーパー駅長として海外メディアに紹介されるほど有名になっている。たまグッズやたまの写真集などが販売され、その経済効果も注目される。

同線は、元は1961年から南海電鉄が運行し、年間360万人以上の人々が利用していたローカル線であったが、移動手段として自動車利用者が増加するにつれ、乗客は減少の一途をたどり、2002年の利用者は約199万人に落ち込み、2003年に南海電鉄が路線を廃止しようとしていることが明らかになった。

それを契機に和歌山県や那賀郡貴志川町（現・紀の川市貴志川町）などの行政をはじめとし、貴志川線を利用してきた沿線住民や自治会の人々が廃線を防ごうと電車利用への呼びかけや署名運動などに取り組んだ。その後2004年9月、存続運動をしてきた地域の人々が結集し、「貴志川線の未来を“つくる”会」（代表・濱口晃夫氏）が結成され、会員は、同年12月末で5千人以上となった。官民一体ともいえる、多くの関係者の努力と大勢の住民のパワーを背景として、貴志川線は和歌山電鐵に移管された。

たまは母猫ミーコや同居猫のちびとともに、貴志駅横の売店である小山商店で飼われていたが、貴志川線の移管に伴い従来の場所に猫小屋を置いておけなくなり、店主である小山利子氏が貴志駅の中に猫の小屋を置かせてほしいと依頼した。それを受けた和歌山電鐵社長・小嶋光信氏が、駅舎の中に小屋を置くことについて利用客に理解を得るため、たまを和歌山電鐵の社員として駅長に任命し、2007年1月5日、貴志駅で任命式が行われた。鉄道史上初めての、正式に委嘱された猫の駅長が誕生し、一緒に飼われていたミーコとちびも助役に任命された。たま駅長就任のニュースが全国に報じられると、貴志駅は全国から訪れる人が増え、和歌山電鐵に移管された一年目の2006年度の乗客数は211万人、2007年度約211万4千人に増加した（以上、西松：2009を参照しまとめた）。

貴志駅といえば猫のたま駅長というシンボリック的存在となった上に、様々な事業の展開やリニューアルによる、いちご電車・おもちゃ電車・たま電車の登場によって、和歌山電鐵はローカル線廃線を免れたばかりでなく、全国的に知られることとなった。

本事例については、テレビやインターネットという報道媒体を通して様々な情報を得ることができたが、現地を訪れて、たま駅長に会ってみること、リニューアルデザインの電車に乗り、その面白さを体験してみるなどから、どのような点が

大勢の人々を呼び込む要因となっているのかを分析し、地域の活性化に活用可能な資源をいかに掘り起し、デザインしてゆくかということ学べるのではないかと考えた。そこでフィールドワークを実施することとし、さらにそれにより得た知見を活かす方法として、貴志駅沿線に点在する歴史ある神社などの場所とたま駅のような話題となっている人気スポットとをうまく関連づけることにより、一層集客力を高めるような観光のモデルルートを提案できないかと考えた。

フィールドワークは、平成22年12月20日、観光学部6名の学生（3回生3名、4回生3名）とその学生らが所属するゼミナールの指導者の計7名で実施し、和歌山電鐵貴志駅および伊太祁曾神社を訪れた。本フィールドワークに関しては、事前に3回生が中心となって行程表を作成し、そのプランに従って見学を実施した。その3回生が本小論の執筆者としてフィールドワークの体験をレポートし、議論の機会を得た後、それに基づいて各自がテーマを分担し、次の3点についてまとめた。第一に、貴志駅へのアクセスとして欠くことのできない、3種類のリニューアルデザイン電車について述べる。第二に、貴志駅そのものについて報告するとともに、その後登場した動物駅長についても触れる。第三に、地域への集客という点から、貴志駅だけでなく、伊太祁曾神社など貴志川線沿線などを含めた観光のモデルルートの提案を試みた。

2. 貴志駅へのアクセス

たま駅長が勤務する貴志駅へのアクセスは、自動車を除くと和歌山電鐵貴志川線を利用するのが唯一の方法である。同線はJR和歌山駅9番のりばから乗車することができ、約30分で終点の貴志駅に着く。JR和歌山駅へは、新大阪から特急で約1時間、大阪から快速で約1時間25分、天王寺から特急で約45分または快速で約65分である。また飛行機の場合は、関西空港まで東京（羽田）から約65分、札幌（新千歳）から約125分、福岡（福岡）から約70分で着き、その後快速（日根野乗り換え）で約45分、空港バスでは約40分でJR和歌山駅に到着する。（参照：和歌山電鐵株式会社ホームページ2011/3/13）

このようにJR和歌山駅までのアクセス方法は様々であるが、全国から来和する観光客にとって、貴志駅へのアクセス手段は和歌山電鐵貴志川線に限られる点から、いちご電車、おもちゃ電車、たま電車という3種類のユニークな電車の登場は、たま駅長を一目みたいと訪れる観光客に一層の楽しみを提供することになるとともに、鉄道マニアをはじめ、家族連れなど、それらに乗車することを目的とする人々の増加につながったと考えられる。

これら3種類の電車に関して、主に和歌山電鐵株式会社のホームページから引用・参照し、それぞれの特徴を以下にまとめ、多くの人に乘車してみたいと思わせる魅力はどのよう

な点にあるのかを考えてみたい。フィールドワークにおいて実際に乗車したのは、おもちゃ電車とたま電車であったが、後日いちご電車にも乗車した。

2.1 いちご電車について

2006年8月6日に、和歌山電鐵貴志川線に初めてリニューアルデザイン列車「いちご電車」が登場した。いちご電車をデザインしたのは両備グループのデザイン顧問である水戸岡鋭治氏（注1）である。貴志駅周辺の地域の特産品である貴志川町のイチゴをモチーフにし、白い車体に赤いドアやロゴマークが子どもや若い女性の心をくすぐるようなデザインである。リニューアル費用は「いちご列車サポーター」の支援や寄付によって集められた。車内にはサポーターの名前を載せたプレートが設置されている。

いちご電車のコンセプトに関しては、和歌山電鐵株式会社のホームページに次の4点が示されている。

- ① 利用する側（人）にとっても、運用する側（人）にとっても、無理のない使い良い公共移動空間・装置にすること
- ② 「いちご電車」を使う全ての人に優しく、使いやすく、わかりやすく、たのしく、みんなのでんしゃに…
- ③ 日本一カワイイ、楽しい、オシャレな電車に…
- ④ みんなで楽しく、ワイワイ、通学・通勤、遠足、ミニ旅行、車内で井戸端会議やミニミュージアムに、いつでも誰でも好きなように使える電車に…



写真1 いちご電車（筆者撮影）



写真2 車内のチラシもいちご電車（筆者撮影）

2.2 おもちゃ電車について

2007年7月29日、いちご電車の次に登場したのがおもちゃ電車である。「おもでん」や「OMO」の愛称がついている。リニューアル費用は、和歌山電鉄の沿線で育ったTJホールディングカンパニーの社長である谷口悟氏との縁から、「ガンダム電車」広告支援の5年分の費用を前倒しにしてあてられた。いちご電車の弟分としてふさわしいものにするため、水戸岡鋭治氏のデザインコンセプトを加えて現在の「おもちゃ電車」が誕生した。

おもちゃ電車のコンセプトに関しては、次の3点が示されている。

- ① 外観だけでなく、内観もこだわって乗って楽しい電車。
- ② こどもも、おとなも楽しめる電車。
- ③ 世界初、電車内のガチャガチャマシーンでおもちゃを販売。

フィールドワークへの往路はおもちゃ電車に乗車した。いちご電車のかわいらしさを踏襲しているだけでなく、おもちゃ電車ならではの個性もあり、車内にガチャガチャマシーンや本物のおもちゃや絵本が置いてあり、利用者をわくわくさせる内装であった。



写真3 おもちゃ電車 (筆者撮影)



写真4 電車内のガチャガチャマシーン (筆者撮影)

2.3 たま電車について

2009年3月21日、3台目にリニューアルされ登場したの

がたま電車である。2008年にスーパー駅長に就任した、日本を代表する働く猫「たま駅長」がモチーフにされている。列車の外装と内部の壁にはたくさんのたま駅長が走ったり寝転んだりしている絵が描かれている。描かれたたま駅長の数は101匹に及び、実際に数えてみたくなるような面白さがある。リニューアルの費用は「たま電車サポーター」の支援や寄付などでまかなわれ、今回はたま駅長自身もお年玉を貯めサポーターに参加している。

たま電車コンセプトに関しては、「エコ&ネコロジカルトレイン」をキーワードとして、次の3点が示されている。

- ① たま駅長の目配り、気配り、心配りをいたるところで体感し、駅長と心のコミュニケーションができる電車
- ② 人の五感にやさしく、自然に還る木を可能なかぎり使ったエコロジカルな空間
- ③ 素材・色・形に「たま」の姿をイメージーションゆたかに展開した、いまだかつてない“ネコロジカル”なデザイン

フィールドワークの復路はたま電車に乗ったが、電車に描かれたたま駅長が101匹もいるとは思わなかった。乗客の予想を上回る工夫が凝らされている。また車内の床にたま駅長の足跡があったのが粋な演出である。その後4月にはたま駅長の足跡はさらに増えて、JR和歌山駅構内から和歌山電鉄貴志川線ホームへの誘導にも活用されていた(写真5、6)。



写真5・6 たまの足跡による改札への誘導



写真7 プレートに記されたサポーター名

今回乗車した電車に共通することは、車内に広告がないこと、列車連結部がとてども広くて段差もなくバリアフリーなデザインになっていることであった。広告がないのは、先に述べたように、これらの電車はサポーターの支援や寄付によってまかなわれているからだと考えられる（写真7）。またバリアフリーなデザインは、お年寄りが乗車しやすいだけでなく、幼児などの子供連れなど誰もが使いやすいユニバーサルデザインであると言える。乗車した際、地元住民が日常生活でこのリニューアルされた電車を使っている風景を目にしたが、いちご電車のコンセプトにあった「みんなでワイワイ」は観光客にしか見られないように感じた。生活の手段として毎日使っている地元住民にとっての電車の持つ意味と、貴志川線にしかない列車への乗車を目的としている観光客との目的の違いは当然あるだろう。観光は観光客のためだけでなく、観光資源を有する地域の人々の両者にとってメリットのあるものでなければ存続は難しいと考えられる。それぞれに工夫を凝らした特徴ある列車に乗ることを目的とする乗客が増加することによって、貴志川線は存続し、地元住民の足としての機能を果たせるといえるだろう。その点からも、ますますの集客を目的として、地域の人たちが今後もこのユニークな電車を全国にアピールしていくことが必要であると思われる。

3. 全国の動物駅長

3.1 和歌山県貴志川線・たま駅長

貴志川線には現在、駅長として猫のたまが就任している。たまは2007年に正式に和歌山電鉄から駅長として任命され、多くの観光客を惹きつけている。

たまはもともと貴志駅舎南側にあった倉庫内の作業員詰め所で、母親であるミーコと4匹の兄弟とともに飼われていた。兄弟のうちの1匹は死んでしまい、2匹は新しい飼い主に飼われ、たまは母親のミーコと共に貴志駅に付属している売店、「小山商店」で飼われることになった。たま達は売店と倉庫の間につくられた猫小屋で飼われていたのだが、南海電鉄から和歌山電鉄の経営移管によって倉庫が取り壊されることとなり、住む場所がなくなった。そこで困った飼い主が、和歌山電鉄の社長に猫を駅に住ませてもらえるように頼んだのが、たまが駅長に就任したきっかけである。

貴志駅は2010年に改装され、現在はたま一色になっている。具体的には、まず駅のホームには電車と果物をはじめ農作物を祀る「いちご神社」、電車とおもちゃや遊具を祀っている「おもちゃ神社」、電車とねこや動物全般を祀っている「ねこ神社」がある。3つが横一列に祀られて、それぞれ貴志川線を走るいちご電車、おもちゃ電車、たま電車とリンクしている。電車を降りてすぐ目につくところに建てられているため、訪問者はたま駅長のいる駅に来たのだと実感することができるだろう。



写真8 ホームの神社（筆者撮影）



写真9 貴志駅（筆者撮影）

次に、たま駅長は改札をですすぐのところにオフィスがあり、ガラスを通して見ることができる（写真10）。たまの出動日は、貴志川線のHPで確認することができる。勤務時間は9時から17時で、日曜日は休みだが、たま駅長が休みの日にはたま駅長代理が出勤する日もある（参照：和歌山電鉄HP）。訪れた日は残念ながら、たまは丸くなっていて顔を見ることができなかったが、想像していたよりも近くで見ることができ、喜んでいる観光客の姿も見られた。



写真10 たま駅長（筆者撮影）

駅の各所には、たまのイラストがあり、駅舎の屋根が猫の形をしているなど、たまを見たいと訪れる観光客を惹きつける様々な工夫が凝らされていた。駅全体は木造で統一され、落ち着いた印象をかもしている。また、駅には「たまカフェ」というカフェもあり、落ち着いた空間でゆっくり休憩することのできるスペースとなっている。カフェ内には、たまのグッズが飾られ、「たまみくじ」というおみくじもあり、飲食以外にも

楽しむことができる。また隣接しているたまの飼い主が経営する小山商店では、多くの種類のたまのグッズを購入することができる。

貴志川線ではたまを中心にさまざまな取り組みを行っている。まず、ネコとエコをかけて、ネコロジーと題し、CO₂の排出量を大幅に削減したたま電球を売り出し、環境問題に取り組んでいる。イベントとしては、いちご電車に乗っていちご狩り、人気アニメのキャラクター、ドラえもとたまがコラボするなど、駅の魅力を活かしたイベントを開催している。また、たま駅長の活躍は国内だけでなくとどまらず、海外にも及んでいる。昨年にはフランス映画「ネコを探して」(邦題)に出演した。現在は大韓航空のCMにも出演するなど、活躍の場はますます広がっている。たまの経済効果は11億円にも及んでいるそうだ(2008年、AFPBB NEWS)。

全国にはたま駅長の他にも動物駅長がいる。猫のばす(会津鉄道)、ウサギのもっちい(山形鉄道フラワー長井線)、ヤギの九太郎(JR香椎線)、ニホンザルのねひめ、らかん(北条鉄道)などである(参照:YOMIURI ONLINE 2010/10/25)。その中でたまは最初の動物駅長である。次にたま以外にも全国で活躍する2匹の駅長をとりあげる。

3.2 山形県フラワー長井線宮内駅 もっちい駅長

まず、こどもをターゲットにし、さまざまなイベントを行っている動物駅長の例として、山形県フラワー長井線の動物駅長の例を取り上げる。



山形県のフラワー長井線にも、2010年に駅の再有人化と共に駅長として、白ウサギの「もっちい」が就任した(写真:山形鉄道HPより引用)。同駅では他に駅員としてうさぎの「びーたー」「てん」、非常勤助役としてクサガメの「かめ吉」も就任した。ウサギを駅長として採用した理由には、宮内駅近くの熊野大社の御神楽裏でウサギの彫刻を3羽見つけると幸せになれるという言い伝えがあること、フラワー長井線に白兔駅があることなど、ウサギに縁があることがあげられる。また、同年には車両に駅長であるもっちいを描いた列車の運行が始まっている。客が大勢いるときは、「ふれあいコーナー」で、直接ウサギと触れ合うこともできる。宮内駅は子供たちに愛される駅を目標としており、駅内には約300冊の絵本を集めた図書館も開設されている。また、ウサギにちなんで、駅でお月見のイベントを行ったり、子供向けに列車内で読み聞かせを行ったりするイベントを開催している(参照:山形新聞2010/2/27)。

3.3 福島県会津鉄道会津線芦ノ牧温泉駅 ばす駅長

次にたまと同じネコの駅長として、福島県会津鉄道会津線のばす駅長を取り上げる(写真:会津鉄道HPより引用)。



福島県の会津鉄道会津線、芦ノ牧温泉駅では2008年に猫の「ばす」が名誉駅長に任命された。アニメ「となりのトトロ」にでてくるネコバスに似ていることからばすと名付けられたばすは駅長に任命される前から、この駅に住んでおり、地元の人から愛されていた。ばすの就任以来、駅の利用率は1.5倍になった(参照:朝日新聞2007/7/31)。会津鉄道でも、駅長ばすをモチーフとしたトロッコ列車が2010年に運行を開始した。会津鉄道ではさまざまなイベントが開催されているが、会津鉄道のホームページでは、ばすの目線からイベントの紹介などがされていて、読んでいて楽しくなるような工夫がされている。会津鉄道では、ばすを中心としたイベントというよりも、持っている観光資源を活かしたイベントを開催し、それをHPにあるばすの日記などを通じて、宣伝するといった貴志川線とは違った特徴があるように感じた。ばすは会津を中心に活動するアーティストとコラボしてCDデビューをするなどの活動もしている。

3.4 動物駅長の特徴と課題

これらの動物駅長が活躍する駅の特徴としては、① 就任した動物駅長は駅とのなんらかの接点をもっている、② 動物駅長に関連するイベントが定期的におこなわれている、などがあげられる。①の特徴としては、どの動物も駅長に就任する以前から駅に住んでいたなどで、駅にゆかりがあるという共通点がある。もともと地元の人となじみがあったり、地元の観光名所になじみやすい動物を駅長に採用したりすることで、観光地の宣伝を効果的に、印象深くしていると感じた。②の特徴としては、どの駅も駅長が活躍するイベントを行うことで、常に駅を利用する人を飽きさせない工夫がこらしてあげられる。会津鉄道の駅長ばすの例では、ホームページなどを通じてイベントの広報に一役かっている。単にイベントを連発するよりも、動物駅長を活かしてイベントを開催することで、駅の個性をつくりだすことができている。しかし、単に動物を駅長に就任させれば駅が盛り上がるというわけではない。駅を盛り上げるのに動物駅長がどのような役割を果たすのかはそれぞれ異なる。例えば、たまと先ほど例に挙げた会津鉄道のばすとでは駅周辺環境が違う。ばすがいる会津線には近くに温泉などがたくさんあり、観光資源が多い。それに比べると、たまがいる貴志川線には観光資源が少ない。そういった点で、動物駅長が観光客集客に果たす役割の大きさが変わる。たまは最初の動物駅長ということで注目されたが、各地で多くの動物駅長が登場すると、単に動物の

駅長がいることをアピールするだけで観光客を集客できるというのは考えにくい。また、動物には寿命の問題もある。短期的に観光客を集客することができたとしても、長期的には難しいと考えられる。長期的に観光客を集客し続けるためにも、駅の持つ個性、駅周辺の観光資源に合わせて、動物駅長の採用が駅にとって本当に必要なかを考えることが必要であるといえる。

4. たま駅を中心とした観光ルート

4.1 現状と課題

貴志川線「貴志駅」は、近日韓国のメディアが訪れるなど、国外からも注目されるほどにその知名度は高く、観光地として成り立っているのではないかと思われた。しかし、フィールドワークを行った日は平日であったためか利用客が少なく、想像していたような賑わいは感じられなかった。また、もう一か所訪れた「伊太祁曾神社」は、沿線マップに観光地として載っているにもかかわらず、実際に行ってみると案内板も十分ではなく、観光地としてのPRは進んでいないように見受けられた。今は、「たま駅長ブーム」に乗って貴志川線が注目を浴びているが、その持続性の保証はないのである。したがって、「たま駅長」戦略に依存することなく、他の沿線資源にも磨きをかけ、貴志川線の各観光地を点としてではなく、線として関連づけてアピールしていく必要があるのではないかと考える。

そこで、貴志川線の路線図を参考に、その沿線上の観光資源となりうる地点を拾い上げ、貴志川線を利用した観光プランとして、モデルルートの提案を試みる。

4.2 モデルルートの提案



(引用:和歌山電鐵株式会社H P・路線図

<http://www.wakayama-dentetsu.co.jp/route.html>

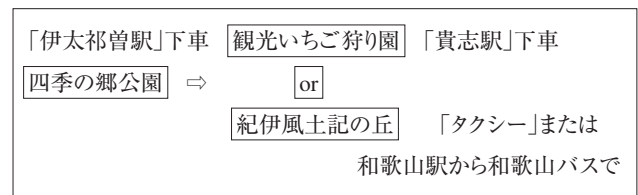
検索:2011/03/03)

上図の路線図には、貴志川線各駅近辺の観光地がいくつ

か掲載されている。これより何か所かを選び、観光客の年齢層や、ニーズに分け、(ア)から(エ)の4つのルートを提案したい。タイムテーブルは、2011年3月24日貴志川線時刻表によるものである。(参照:<http://www.wakayama-dentetsu.co.jp/jikoku/pdfs/wakj0804.pdf>)

(ア) 家族向けモデルルート

沿線には「四季の郷公園」⁽²⁾、「観光いちご狩り園」⁽³⁾、「紀伊風土記の丘」⁽⁴⁾など家族が訪れやすいスポットがあり、地元の家族連れ客に週末に貴志川線を利用してもらえると考えた。



〈アピールポイント〉

- 1.「四季の郷公園」はユニークな遊具が豊富で、子供が大いに楽しめる公園であり、自然に囲まれたのどかな場所で、大人もゆったりとした時間を満喫できる。
- 2.「観光いちご狩り園」は2月～5月限定だが、多くの家族客が訪れる人気のスポットである。
- 3.「紀伊風土記の丘」は、勾玉づくりや火おこし体験などのイベントが満載である。

〈1日のタイムテーブル〉

四季の郷公園→観光いちご狩り園

08:53 J R 和歌山駅発 → 09:10 伊太祁曾駅着 → (徒歩15分) → 09:25 「四季の郷公園」 → 10:30～12:30 遊ぶ(昼食持参) → (徒歩) → 13:08 伊太祁曾駅発 → 13:20 貴志駅着 → (徒歩15分) → 13:35～15:00 観光いちご狩り園 → (徒歩) → 15:15～15:50 貴志駅でカフェ、たまグッズ等の買い物を楽しむ → 15:56 貴志駅発 → 16:31 J R 和歌山駅着 駅で買い物、周辺で食事

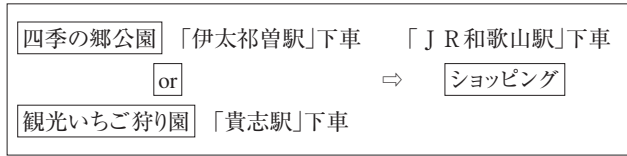
四季の郷公園→紀伊風土記の丘

08:53 J R 和歌山駅発 → 09:10 伊太祁曾駅着 → (徒歩15分) → 09:25 「四季の郷公園」で遊ぶ(昼食持参) → (徒歩15分) → 12:40 伊太祁曾駅発 → 12:58 和歌山駅着 → (バス) → 13:20～16:30 紀伊風土記の丘 → 17:10 J R 和歌山駅着 (バス)

(イ) 若者向けモデルルート

昨年4月にJR和歌山駅内に新たなショッピングビルMIOがオープンしたことにより、和歌山駅まで足を運ぶ若者が多くなったように思われる。また、貴志川線の「たま駅長」や貴

志川駅近辺の「観光いちご狩り園」は学生の間でも訪れたいという声をよく耳にする。そこで、これらを結びつけて若者が楽しめるプランを組むことができると考えた。



〈アピールポイント〉

1. J R和歌山駅に昨年4月にオープンした、若者向けショッピングビル「M I O」や「近鉄百貨店」で、ショッピングを満喫できる。
2. 「観光いちご狩り園」は時間無制限のうえ、いちご食べ放題で若者に人気がある。

〈1日のタイムテーブル〉

四季の郷公園→ショッピング

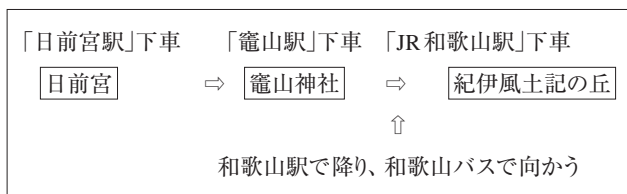
09:26 J R和歌山駅発 → 09:43 伊太祁曾神社着 → 10:00 四季の郷公園 → (徒歩約15分) → 11:00 遊ぶ(昼食持参) → 14:40 伊太祁曾駅発 → 14:57 J R和歌山駅着 → (徒歩) → 15:00～ 駅近辺でショッピング

観光いちご狩り園→ショッピング

09:09 J R和歌山駅発 → 09:43 貴志駅着 → (徒歩約15分) → 10:00～13:30 観光いちご狩り園 → 13:45 貴志駅でカフェ、お土産ショッピング → 14:26 貴志駅発 → 14:57 J R和歌山駅着 → 15:00～ 駅ビルでのショッピング

(ウ)歴史・古墳ファン向けモデルルート

沿線には歴史ある寺院、神社、また「紀伊風土記の丘」のような古墳を納めている場所もあり、歴史や考古学に興味のある観光客にとっては是非訪れたいスポットが集結している。歴史・古墳ファン向けにそれらを巡る旅を提案するのも良いと考えた。



〈アピールポイント〉

1. 「日前宮」「竈山神社」「紀伊風土記の丘」を巡り、遺跡や古墳、歴史的建造物を見学でき、ものづくり体験等を通して昔の文化に触れることもできる。
2. 紀伊風土記の丘は、貴志川線の駅から徒歩で行くには少し遠いのが、J R和歌山駅からバスがでている。
3. ルートの中に「伊太祁曾神社」、「和歌山城」を組み入れても良い。



(引用：yahoo 画像「日前宮」)



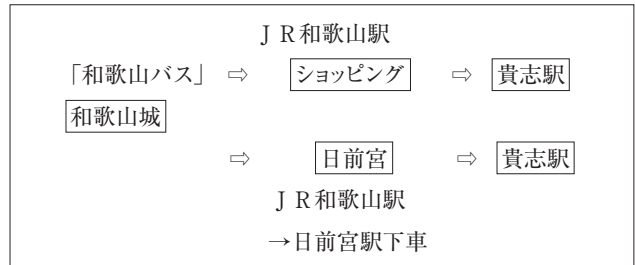
(引用：yahoo 画像「竈山神社」)

〈1日のタイムテーブル〉

09:26 J R和歌山駅発 → 09:30 日前宮駅着 → 09:31 日前宮見学 → 10:26 日前宮駅発 → 10:28 竈山駅着 → (徒歩10分) → 10:40 竈山神社見学 → (徒歩) → 11:18 竈山駅発 → 11:27 J R和歌山駅着 駅近辺で昼食 → 12:45 和歌山バス乗車 → 13:00～16:30「紀伊風土記の丘」 → (バス) → 17:30 J R和歌山駅

(エ)外国人向けモデルルート

和歌山城などの外国人観光客に人気のスポットや社寺もあり、日本らしさを感じられる旅を提供できると考えた。また外国からも注目される貴志駅の「たま駅長」を含め、和歌山ならではの観光を楽しんでもらえると考えた。



〈アピールポイント〉

1. 和歌山市のシンボル「和歌山城」は外国人にとっておきの観光スポット。
2. J R和歌山駅周辺で、お土産や衣服、食べ物などショッピングが楽しめる。
3. 日前宮は歴史の深い神宮で、日本らしさを感じられる外

国人にお勧めの観光地。

4. 貴志駅の「たま駅長」は国外にまで認知度が広がっており、注目度が高い。

〈1日のタイムテーブル〉

ショッピング

09:30～11:00 和歌山城見学 → 11:30 和歌山城、又はJR和歌山駅周辺で昼食 → 12:15～14:10 ショッピング → 14:20 JR和歌山駅発 → 14:50 貴志駅着カフェでティータイム、ショッピング等 → 16:30 貴志駅発 → 17:04 JR和歌山駅着

日前宮

09:30～11:00 和歌山城見学 → 11:30 和歌山城、又はJR和歌山駅周辺で昼食 → 12:50 JR和歌山駅発 → 12:54 日前宮駅着 日前宮見学（～14:20） → 14:24 日前宮駅発 → 14:50 貴志駅着 → 15:00 カフェ、ショッピング → 16:30 貴志駅発 → 17:04 JR和歌山駅着

4.3 まとめ

以上のように、貴志川線沿線には、様々な観光プランを作ることができる様々な資源があるといえる。「貴志駅」の発展を機に、他の施設や観光地も組み込んで顧客を惹きつける魅力を掘り起こし、これまで以上に沿線地域の魅力が伝わるよう改善を図ることで、より多くの観光客を呼び込む可能性がさらに高まるだろう。

5. まとめと課題

フィールドワークで、全国的に報道され話題となった猫のたま駅長が勤務する貴志駅および『日本書紀』に記されている木の神様「五十猛命」を祀る伊太祁曽神社を訪れた。報道の力により一日にして全国的に話題になったスポットと長い歴史ある神社という対照的な場所であった。

貴志駅は、和歌山電鐵、行政、地元住民をはじめとする大勢のサポーターの想いが大きな力となり、様々な取り組みとして具体化された結果、貴志川線廃線を阻止し、リニューアル列車を登場させ、たま駅長を誕生させた。いちご電車、おもちゃ電車、たま電車と、それぞれに特徴を持つ列車が、鉄道ファンならずとも、大勢の人々を乗車へと引き寄せた。また、たま駅長の、癒しということばに象徴される愛らしさが、老若男女を問わず、多くの人々を貴志駅へと向かわせたと考えられる。

和歌山県には、2004年に世界遺産に登録された高野熊野参詣道だけではなく、伊太祁曽神社のように古い歴史を有する場所が各地に点在している。和歌山に暮らす一人一人がその認識を深め、有形・無形の豊かな資源について他者に発信してゆけるように、公的な機関や地域のことをよく知る専門家やボランティアなどによる情報提供や観光教育も必要と

なるのではないだろうか。

一度は訪れてみたい場所、再び訪れてみたい場所となるように、観光の資源となりうる場や歴史やテーマを掘り起こし、各地点をストーリーで紡ぐ事、すなわち人を魅了する物語性が求められると考える。たま駅長誕生の背景にはこの物語性が感じられ、今後どのようにストーリーが展開されてゆくのかが、貴志駅への訪問者数の維持とさらなる増加への鍵となるだろう。

今回のフィールドワークを振り返り、認識しておくべきは、たった一度のフィールドワークで知りえることは限られているということである。今回は、主として自らの訪問の体験から興味を喚起された点をさらに調べて報告にまとめ、4つのモデルルートの提案を試みるにとどまった。しかしながら、その地を訪れる観光客にとって最初の訪問の楽しさや充実の度合いが、再訪へとつながるかどうかの重要なポイントになることを考えると、今回筆者らが体験を通して感じ、知り得た事柄は、さらに検討を加える作業を継続することで、地域の観光ならびに活性化を促進するうえでの第一歩として活かすことができるだろう。

最後に、和歌山大学観光学部では、「RIP：地域インターンシッププログラム」と呼ばれる取り組みがあり、貴志川線沿線地域の活性化を目的とした継続的な和歌山市地域インターンシップも遂行されつつあることを加えておきたい（『和歌山市地域インターンシップ中間報告書』2010）。

【注】

(1) 72年にドーンデザイン研究所を設立し、建築や鉄道などの幅広いデザインを手がける。特にJR九州の鉄道車両や駅舎デザインでは、国際的な鉄道関連のデザイン賞、ブルネル賞やローレル賞、ブルーリボン賞などを受賞。（日経トレンドイネット <http://trendy.nikkeibp.co.jp/article/special/20100913/1032920> 検索：2011/03/13）

(2) 「四季の郷公園」

「緑化果樹園」と「自然観察の森」の二つのエリアを設けた自然と農業のテーマパーク。家族連れやカップル、お年寄りにも人気がある。

時間：9～17時

入園料：無料

（引用：yahoo画像検索 四季の郷公園）

(3) 「観光いちご狩り園」

大規模なビニールハウスの中で育つ貴志川特産の大粒いちごを時間無制限で食べ放題で楽しめる。

時間：9～5時

入園料：大人1,500円 小学生

1,000円 幼児700円

（引用：貴志川いちご狩り協会HP）

(4) 「紀伊風土記の丘」

特別史跡「岩橋千塚古墳群」を中心とした博物館。約430基の古



墳の他、復元竪穴式住居、資料館、万葉植物園などがある。
 時間：9～5時
 入園料：無料（資料館特別展、モノ作り体験は有料）
 （引用：yahoo 画像検索 紀伊風土記の丘）



【参考文献】

西川昌克・吉田寛哉・坂本望・須山智弘・木原翔・橋本奈央子・市野瀬文音・出口竜也・竹林浩志（2010）『和歌山市地域インターネット中間報告書』
 西松宏（2009）『たま駅長』ハート出版

【参考URL】

会津鉄道株式会社
<http://www.aizutetsudo.jp/info/?cat=22>
 朝日新聞社
<http://www.asahi.com/travel/rail/news/TKY201007300416.html>
 初詣ガイド2011 竈山神社
<http://hatsumoudeg.jp/pref30/J30M000040/>
 観光いちご狩り協会ホームページ
<http://www.kanko-kinokawa.jp/member/7212/>
 紀伊風土記の丘ホームページ
<http://www.kiifudoki.wakayama-c.ed.jp/>
 るるぶ貴志川いちご狩り園
<http://www.rurubu.com/season/winter/ichigo/detail.aspx?sozaino=300001>
 るるぶ日前宮
<http://www.rurubu.com/sight/detail.aspx?BookID=A3500040>
 和歌山電鐵株式会社ホームページ
<http://www.wakayama-dentetsu.co.jp/tama/index.html>
 和歌山市公式ホームページ 四季の郷公園
http://www.city.wakayama.wakayama.jp/menu_4/sikinosato.html
 読売新聞
http://www.yomiuri.co.jp/national/news/20101024-OYT_1_T00045.htm
 山形新聞
http://yamagata-np.jp/news/201007/30/kj_2010073001019.php
 山形鉄道株式会社
<http://www.flower-liner.jp/index.html>

受付日 2011年4月4日

受理日 2011年4月27日